

### 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	独自の理念は開設時より玄関に掲示している。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関に掲示しており、ゆりかもめ便りに掲載し、日々取り組んでいる。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	月一回発行のゆりかもめ新聞の掲示や、家族への発送・面会時の対話等で伝えるよう取り組んでいる。		アンケートを記入してもらったりしている。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩や買物等に出たり、庭に出た時等、通りがかりの方への積極的なあいさつなどに努めている。		近隣の方にこちらから積極的にあいさつや声かけをしている。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	敬老会・地区の祭り等に参加させていただき交流している。ボランティアの訪問等も積極的に受け入れている。		今までの取り組みを続け、ボランティアの活用をもっと積極的にすすめていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営委員会等で話題にはなるが、取り組みまではなされていない。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	要改善等の指導は毎日の生活介護の中で活かされるよう、職員全員が目を通し具体的な取り組みがなされている。	○	改善点など一定期間が過ぎた時、カンファなどで改善の進み具合などを互いに話し合うと良い。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会での意見は全員に申し送られ、サービスの向上に活かされている。		出席された方達が積極的に意見を出しやすい雰囲気がある。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者が取り組んでいる。		グループホーム同士で訪問しあう機会があればいい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	支援がなされている。		勉強をしてきた人が施設内で勉強会を開いたらよいと思う。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待がないよう職員が互いに注意を払い防止に努めているが、荒い口調になったり、大きな声を出したりすることがある。		虐待に至らないまでもストレスの度合いを管理者・職員間で互いを注意して見守りあう。職員間の目が抑止力になるよう取り組みたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分説明を行い理解・納得を図っている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からの意見や不満・苦情が表せるような関係づくりに努め、管理者に報告し反映させている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に一度は小遣い帳に目を通していただきサインをもらい、面会時に状態の説明は報告され、異動についても知らせている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	表示があれば申し送りなどで話し合い反映させている。		家族からの意見等は、ホーム便りにつける手紙でその都度知らせており、運営に反映させている。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングが開かれ、そこで話し合われている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	特変時などは残業・早出で調整している。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット間は日頃よりコミュニケーションはとっており、異動によるダメージはないと考える。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実務者研修を受けさせている。	希望者の中から管理者が選出して受けさせている。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡会に入会し、管理者・職員が出席し、情報交換やネットワーク作りの取り組みをしている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	法人全体での親睦会等を行い、職員のストレス解消に努めている。	歓送迎会など親睦会も含め、法人全体で取り組んでいる。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	現状は行っていないが、将来的にはしていく必要があると思っている。	○ 向上心を持ち続けたいが、勤務状況は人的に足りないと思う。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	申し込みから入所まで管理者ができる限り本人・家族より話を聞いている。	本人自身の口で語られる人は少ないが、表情や雰囲気察してあげられるようになりたいと努力している。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	要求があれば必ず機会をつくっている。	○ 入所希望の気持ちが強く、当人の問題行動をはっきりと提示されないことがあるが、そこまで語っていただけよう取り組みたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居希望で訪問され満床で受け入れることができない場合で情報は伝えるよう努力している。		他のサービス利用が積極的にすすめることができるよう勉強する必要がある。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	面会を制限することなく、自分の方から参加できるようになるまで気長に見守るよう、管理者より指導を受けている。		入所後は、いきなり他の利用者と同じことをすすめたりせず、能力・好き嫌いなどをじっくり見守らせていただいている。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調理法を教わったり、行事についての豊富な知識を伝授していただいたり、悲しい時には共に涙し、また嬉しい時は共に喜んでる。		表情が暗い、面会があったなど悲しみや喜びを共にし、自分が支えているようであるが、自分も支えられていると思う。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	悩みを吐露されることもあり共感を持ちながら耳をかたむけ「共に支えましょう」という姿勢で努力している。		情報共有しあい、一緒に本人を支えるよう取り組んでいる。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	困った話ばかりでなく、「こんなにすばらしいところを見つけました」という方向での家族への報告をするよう努めている。		悪いことばかり伝えるのではなく、良かったことに目を向け、ご家族に報告する。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来やすい雰囲気を作り、また声かけや対応をしている。		深夜は困ると思うが、ほとんど時間の制限もなく自由に家族がふれあうようできている。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	席の決め方やレクリエーションの内容を職員同士で十分話し合い、個々に合った作業やレクリエーションに楽しく参加できるよう努力している。		個人の特性を活かし、その人がその人らしく生活に張りを持ち、人の役に立っていると自覚できるよう個性の把握に努めている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	例えば入院で利用終了したような場合、管理者が出来る限り様子を伺いに訪問している。		時には、会報の送付などしてみたらどうかと思う。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分のペースで自分の生活が送れるよう、ご本人に合わせた介助をしようと職員は日々努力している。		本人本位での支援に努めているが、問題行動など周囲に影響のある人への支援に対しDr.などから介護者の立場も考えた指導がほしい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の家族や本人との面談や病院や施設からのサマリーに、関わる職員がいつでも目を通し把握できるように個々のケースにセットしてある。		なかなか、生活歴や暮らし方、きちんと把握しているとは言えない部分もあり、入居にあたっての課題だと思う。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人一人に合わせた個別のレケレーションや作業の工夫をし、何もしたくない時はそれでも安心して過ごせるようになっている。		変化には、すみやかに対応できるようになってきている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	生活歴が本人や家族からも情報が取れないことが多いが、様子の観察や職員の気付きの出し合い等を活かした計画を作りたいと努力している。		定期的にミーティングを実施してほしい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとにケアプランを作成しており、現状が反映されるようにしている。		状態の変化があればすぐに作り直し、職員が常に目を通せるようにしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個人ケース記録・介護経過日誌等に記入し、全員で共有し実践や見直しに活かしている。		自分たちでできるリハビリの指導を受け実施している。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	希望する理美容院や他科受診等、家族・本人の要望に応じている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	それぞれの機関と協力しながら支援している。		幼稚園のボランティアの方々に行事の時に来て頂いている。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービスの活用支援はしていない。		他のサービスの活用も必要ではないかと思う。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要性があればしていきたい。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族等の希望を聞き、支援できている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医による診断・治療をうけている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	健康管理や医療活用の支援ができています。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	連携できている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入院加療が必要になった場合は、母体の病院へ入院しており、終末期のあり方については取り組んでいない。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	していない。		看護師がユニットにいてくれると安心できると思う。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	極力努めている。		入所の際、数日前からユニットへ遊び、見学に来て頂いている。



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人に合った声かけ・対応をしている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人が納得し自己決定できるよう支援している。	3時や10時の飲み物を本人に聞き、好みの物を出す等支援している。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人のペースを大切にし、できるだけ希望に添うよう努めて実施している。	職員が少ない時は、もう一人か二人パートでもいてくれたらと思います。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の希望を聞き、近隣の理・美容院へ出かけている。美容師の訪問もある。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者との会話をしながら、出来る事は声かけ・見守りしながら一緒に行っている。	食材選び・買い物から一緒に行っている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	いつもではないが、外出時や買物時に購入し喜ばれている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	支援している。		毎日、排泄チェック表への記録(時間・量・質・色等)を行っている。また、パターン(下剤服用日)や、サインをのがさない様、申し送りをしている。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望を尊重し、タイミングに合わせて支援している。		エアコン・お湯の温度管理を行い、スムーズに、終始気分良く入浴できるよう心掛けている。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	入居者の心身を安楽にし、状況に応じて休息・安眠できるよう支援している。		不眠時は、職員がしばらく添い寝をしたり、安眠できるよう支援している。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個人にあった役割や、共通の楽しみごと・気晴らしを日々の生活に取り入れるよう支援している。		調理の下ごしらえや、縫い物・掃除等、職員と共に楽しみながら行っている。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	支援している。		近隣のスーパーへ、本人と一緒にいき購入したり、職員が希望を聞いて購入している。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や、リハビリ送迎も兼ね、出かけるよう支援している。		近隣に公園や川があり、数名のグループで出かけたり、事業所敷地内での、シャボン玉遊びを楽しまれている。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節の行事・地域の行事だけでなく、機会をつくり外出するよう支援している。		季節の行事(外食も含む)や、ドライブ・ホテルバイキング等、機会をつくり出かけている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援している。		本人の希望にて、代わりに職員が用件を伝えたり、はがき・手紙のやり取りも行っている。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも気軽に訪問できるよう工夫(お茶・お菓子を用意)し、居心地良く過ごせるよう支援している。		遠方の家族・友人・ひ孫の誕生・面会時は、写真撮影を行っている。
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員理解しているが、異食のある方で、夜就寝時、オムツ着用後に家族了承のもと抑制着を着用している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	帰宅欲求のある利用者や、新入居の方が離所する恐れがあり施錠する時があるが、なるべく施錠しない方向で取り組んでいる。		その時の状況に応じて、職員が報告をし、施錠せずチャイムのみにする時もある。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員間での確認を徹底し、常に状況把握できるよう努めている。		離所時の場合の、写真の用意ができています。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	異食ぼうしの為、トイレ・洗濯用洗剤は、目につかない所で管理している。包丁・調理用ハサミは本数を毎日確認・記録し管理している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	訓練・研修を受け、事故防止に取り組んでいる。誤薬防止の為、服薬時は氏名を声に出し、確認して服用している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	一人一人の疾患の特徴、その対処・予防法を事前に把握し、事故発生時の対応も、手順よく敏速に行えるよう訓練・カンファレンスしている。		入居者の急変・事故時は、他の入居者が不穏にならない様、離れた場所に対応している。また、状況に応じて、他入居者の部屋・自室誘導や隣のユニットで過ごしてもらっている。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は、月一回実施している。夜間訓練も年一回行っている。毎回、火元の場所を変更し、避難する出口も変更している。消火器の置き場所も職員全員が確認している。		年一回、病院内での消化訓練に、職員が2名ずつ参加している。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	それぞれの状況が変わり次第、家族に連絡・説明し、常にカンファレンスを行っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	細かい行動まで観察し、速やかに対応できるよう努めている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬についての理解・確認に努めている。		薬剤師からの説明があり、申し送りノートへの記録・報告を行っている。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	予防・飲食物の工夫、マッサージや体操など理解し、実践している。		水分摂取量の少ない入居者へは、その都度便秘の原因、血液の流れが悪くなる等の説明をしている。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアできるよう努めているが、完全ではない。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の食事量に応じた配膳実施。食事量・水分摂取量をケース等に記録。		日々の状況に応じて、そしゃく力の注意を払い支援している。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	職員・入居者の方の手洗い・うがい励行(特に外出時)。まな板・布巾のハイター消毒、食器類の高温消毒。ハイターを使用しての拭き掃除、トイレ掃除。		インフルエンザの感染者(職員)は、すみやかに勤務を停止し治療をうけ、自らが感染源にならないようにしている。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	冷蔵・冷凍での管理の徹底。調理にかかる際の手洗いの徹底。		手洗いの励行・消毒剤・石鹸の使用、調理器具の消毒をし、冷蔵庫の過信に留意している。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物周辺には花を植え、安心できる環境づくりに努めているが、帰宅欲求のある入居者の方の安全面を考慮し、玄関は鍵をかけている場合が多いため、来所者の方にはインターホンで対応している。		玄関は通りの裏側にあり、フェンスも設置されていることもあって入りにくさはあるかもしれないが、季節の花が植えられており、心なごむ風景であると思う。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下の壁は季節感を出した壁面作りを心掛けている。		大人の生活する場であるという事を常に念頭において工夫している。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ラウンジ兼居間となっており座る場所は決まっているものの、自由に移動してもらい会話・作業を楽しんでもらう。		それぞれが自分のペースを心地良く感じて過ごしていると思う。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的に居室は家族の方・入居者の方と一緒に配置してもらっている。認知症がひどくどうしても居室に物が置けない場合は、家族の方に了解を取り、最低限必要な物のみとしている。		自室掃除可能な方には極力声をかけ掃除して頂く。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	入居者の方の体感温度に合わせ、暖房・冷房・ドライを使い分け、快適に過ごしてもらっている。		こまめに換気扇やエアコンの掃除ができていないのが現状。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	畳のスペースでの洗濯物たたみの実施。その人その人に合った椅子を使用したり、廊下全てに手すりをつけて対応している。		共有スペースでは、目が行き届いていると思うが、トイレ・室内での転倒を職員のこまかな心配りで少なくしたいと努力している。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレ・風呂場は扉に明記し、各居室にもネームプレートを掲げ、すぐにわかるようにしている。		声かけにも「トイレ」だけでなく方言や直接動作(小便・うんこ)など各自が工夫している。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の外回りには花を植え、草取りや水撒きなど職員と一緒に行動するようにしている。		散歩に行けないときなど、前のベンチに座り、会話や外の景色を楽しむ。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="checkbox"/>	①ほぼ毎日のように
		<input type="checkbox"/>	②数日に1回程度
		<input checked="" type="checkbox"/>	③たまに
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input checked="" type="checkbox"/>	①大いに増えている
		<input type="checkbox"/>	②少しずつ増えている
		<input type="checkbox"/>	③あまり増えていない
		<input type="checkbox"/>	④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	<input checked="" type="checkbox"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="checkbox"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="checkbox"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="checkbox"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="checkbox"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="checkbox"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどできていない

## 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)